

# 登山月報



IFSC CLIMBING WORLD CUP TOKYO HACHIOJI 2017	2
富士山 氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告	3
第102回 Mountain World	5
祝日「山の日」記念事業「熊本地震の被災にもめげず」	6
「みんな集まれ! なすかし雪遊び隊2017」報告書	7
平成29年度定時総会報告	9
平成29年度理事会(第1回)報告	10
平成29年度理事会(第2回)報告	10
JMA、寄贈図書、編集後記	13

# IFSC CLIMBING WORLD CUP TOKYO HACHIOJI 2017

5月6日、7日とボルダリングワールドカップ(今期第4戦)を八王子市のエスフォルタアリーナにて開催。27の国と地域から138名の選手が出演。開催国枠ということで日本からは男子22名、女子20名が参加。会場は2340人入場の満席となり選手のパフォーマンスに大いに盛りあがった。観戦チケットは、大会前に完売(決勝)と今までにない盛況ぶりに驚き、反面会場の安全管理として関係機関との調整が大会当日まで続き、今までにない体制で大会に臨んだ。7日は、300人ほどのお客様が開場前に並び一番早いお客様は朝の4時半から陣取ったそうだ。

今回2020年東京五輪を見据えてルールの一部を改正。時間切れ前のアテンプト有効が無くなった。結果それが、残り1~2秒での完登などドラマを生んだ。

決勝は、競技壁へのプロジェクションマッピングで始まった。暗闇に幻想的に映し出される映像に観客も集中、決勝の雰囲気が高まったところで選手紹介へ、そしてオブザベーションへ移っていく。

女子は、予選から決勝すべての課題を完登したJanja Garnbret (S L O)が優勝。あらゆるムーブに対応できる能力と強さを感じた。そして野口啓代が2位、野中生萌が3位となった。男子は、最後までもつれたがAleksei Rubtsov (R U S)が優勝。唯一第1課題を完登した榑崎智亜は第3課題で腕を痛め第4課題



を逃し惜しくも2位、渡部桂太が3位となり、男女ともに表彰台に日本人2人が立った。日本人の素晴らしい活躍に会場が沸いた。

運営面では、昨年の加須BWCと今年の代々木BJCの反省として、各スタッフの専門性(外注含む)を高

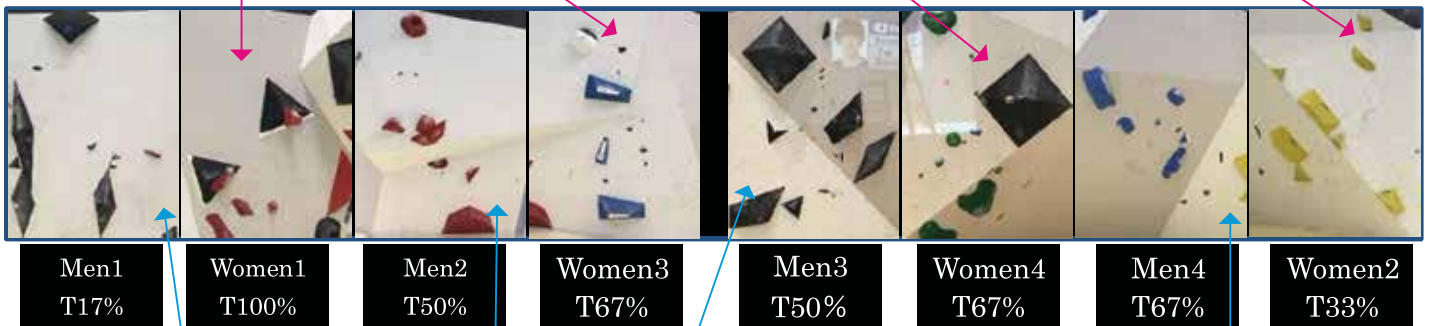
第3課題はスタートポジションがなかなか読めない課題のようで選手が試行錯誤。野中が2アテンプトで完登。野口は苦戦するが6アテンプトの残り1秒で完登。Janja Garnbret は1撃完登。

第4課題は、Shauna Coxsey、野中が一撃完登。続く野口、Janja Garnbret も一撃で完登

第2課題はリーチいっぱいのホールドからトップを取りに行くムーブ。みんなが苦戦するなか野口はそれを落ち着いて一撃。続く Janja Garnbret も2アテンプトで完登。

第1課題は全員が完登。全員1撃。

## Women



第1課題はスリッしやすいホールドのバランス課題。各選手苦戦するなか榑崎が残り2秒のラウンジで完登。

第3課題は、バランス的なスタートと上部の小さなホールド処理がポイント。榑崎一撃。渡部が2アテンプト、Aleksei Rubtsov が3アテンプトで完登

第4課題は、スローパー系のホールドから両手ピンチへのボリュームにラウンジ。今まで苦戦していた Mickael Mawem、Jakob Schubert、石松が完登。逆に今までトップを争っていた榑崎、渡部が登れず。Aleksei Rubtsov が3アテンプトで完登。優勝を決める。

第2課題はダブルダイノから小さなホールドへ繋げるムーブ。榑崎一撃。Aleksei Rubtsov が2アテンプト、渡部が3アテンプトで完登。

## Men



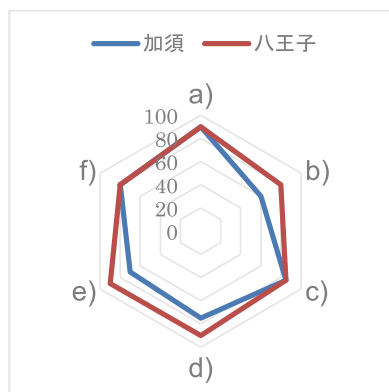
スポーツ振興基金助成事業  
独立行政法人日本スポーツ振興センター

女子	
1	Janja Garnbret SLO
2	野口啓代 JPN
3	野中生萌 JPN
4	Shauna Coxsey GBR
5	Fanny Gibert FRA
6	Petra Klingler SUI
男子	
1	Aleksei Rubtsov RUS
2	檜崎智垂 JPN
3	渡部桂太 JPN
4	Mickael Mawem FRA
5	Jakob Schubert AUT
6	石松大晟 JPN

め、東京都山岳連盟、埼玉県山岳連盟、他関東地区山岳連盟の連合チームで運営に取り組んだ。また、八王子市の市政100周年イベントの一つとして、それに恥じないよう取り組ませて頂きました。

と

- e) 映像、画像、レポートを通じて放送局やメディアにクライミングを広める機会を提供すること
- f) スポンサーに、スポーツクライミングを支援すると同時に自身の製品やサービスを広める機会を提供すること。



次に、IFの大会運営コンセプトに基づき評価する。

- a) 公平だが挑戦しがいのある競技フィールドを提供すること。
- b) 高水準な競技経験をもたらす選手施設とサービスを提供すること。
- c) 大会主催を通じて、地域と大会主催者に利益を供すること。
- d) 感動的で良質な観戦体験を観客に提供するこ

\*今回のワールドカップ、IFの評価もトップレベルと高い。基本となる会場の広さ、諸室、電源、空調などの条件が備わっており、施設の協力度が高く各コンセプトを目指して運営が十分図れた。唯一、アイソレーションのウォームアップ壁の設置が不十分であり指摘を受けた。その指摘に対応するため、壁の増設、マットを加須の体育館まで借りに行くなど、全体を通してスタッフの行動力の高さが評価につながっていると感じている。

そして、この大会が成功裏に終わったこと、2020年東京五輪に向けて良きスタートが切れたことに、開催地の八王子市、各スポンサー様、ならびに運営に携わった関係者の皆さま心よりお礼申し上げます。今後とも引き続きご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願いいたします。

## 〈入場者数〉

### ● 5月6日(土) 1,917人

一般入場口カウント：1,568(内小学生219)人  
来賓招待受付：120人  
メディア：89人(35社)  
選手：140人

### ● 5月7日(日) 2,340人

一般入場口カウント：1,906(内小学生206)人  
\*車いす2人  
来賓招待受付：193人  
メディア：101人(39社)  
選手：140人



客席イメージ

(実行副委員長 村岡正己)

## 平成29年度 富士山 氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成29年4月29日(土)～30日(日)

今回は研修12名、A級主任検定3名、上級指導員養成講習4名、講師6名、山梨県スタッフ5名の計30名での開催となった。参加者は地元山梨県からの7名を筆頭に、北海道、山形県、茨城県、栃木県、千葉県、東京都などから広く参加いただいた。

今年は3月下旬から4月上旬にかけて積雪が多く、スバルラインが開通するか心配されたが、4月中旬以降の融雪が早く、当日は車で5合目まで入ることが出来た。2日間とも好天に恵まれ、充実した研修を実施できました。

今回もスタンディングアックスピレー等の検証を含め、雪上支点の作り方、滑落停止、耐風姿勢などの雪上技術全般の講習を実施した。

以下に参加者の感想を掲載します。

(指導委員会 瀧本)

### 富士山氷雪技術研修会感想文

山梨県山岳連盟 高取和彦

オリエンテーションに始まり、瀧本講師から氷雪技術の指導法についての座学や堤講師によるスタンディングアックスピレー(SABB)時の留意点を全員で学んだ後、各クラスに分かれての実技講習となりました。

私のクラスは堤、上原の両講師と、山梨県山岳連盟スタッフの指導による急斜面を使った雪上歩行の実技を行い、姿勢、動作、足の置き方、キックステップ、ピッケルの持ち方などの基本を学びました。

2日目は、アイゼンを装着した雪上歩行と滑落停止の反復訓練を行いました。滑落停止ではからだ全体を

使って止める方法とピッケルのピックを雪面に打ち込んで止める二つの方法を、如何なる状況からでも瞬時に行動に移れるよう徹底して学びました。「脇が甘〜イッ！」と櫓が飛ぶ中、ピッケルを持つ左脇を締めることを意識して繰り返すうちに、だいぶ様になったと思えるようになったのは、講師の方々の厳しい指導の賜物と感謝いたします。

おりしもこの連休中、北アルプスでは滑落死が相次ぎました。滑落停止の技術が活かされていたら、尊い命を失うことは無かったかも知れないことを思うとき、技術とは現場で躊躇なく使えてこそその技術であることを改めて認識させられた次第です。

提講師から教わった「ピッケルを一道具としてだけでなく、体の一部として使いこなすこと。」を肝に銘じて、今後の後進の指導に当たりたいと思います。

29日夜には降雪があったものの、日中は2日間とも快晴の天気にも恵まれて素晴らしい環境の下で研修を行うことができたことに感謝いたします。

2日間の研修会でご指導を頂いたJMSCAの講師の皆様と山梨県山岳連盟の古屋会長はじめスタッフの皆様のご協力に感謝いたしますと共に、今後の益々のご発展をお祈りいたします。



## 第102回 Mountain World

### ネパール・ヒマラヤ 2017年春

#### 池田常道

昨年5月、マカルー（8485 m）に登って8000 m×14座完登に王手をかけていたイタリア人夫妻、ロマーノ・ベネトとニヴェス・メロワが5月11日、アンナプルナI峰（8091 m）に立ち、ついにゴールインした。

1998年のナンガ・パルバット（8126 m）以来19年間、夫妻はずっと一緒に登ってきた。大パーティのサポートも受けず、酸素も使わず、自分たちの肩で荷を運んで黙々と登り続けた末のゴールである。14座登頂者はとくに30人を越えているが、夫婦そろって成功したのは初めて。ニヴェスは女性で2人目の全山無酸素登頂である。

今季のアンナプルナ北面は雪が多く、1950年フランス・ルートに向かった登山隊はC2以上に登る機会が得られなかった。ほとんどが得るところなく撤収するなか、夫妻と、スペインのアルベルト・セライン、ホナタン・ガルシア、チリのファン・パブロ・モール、セバスティアン・ロハスの6人が残り、最後の攻撃をかけた。全員C2以上に踏み込むのはこの日が初めてだったが、順次頂上を踏むことができた。

チベット側のチョー・オユー北壁を狙った国際チームは、カナダのルイ・ルソー、イギリスのリック・アレン、ポーランドのアダム・ビエレッキ、ドイツのフェーリクス・ベルクの4人。しかし、「過去3年以内にイスラム圏諸国に入った者にはチベット入域ビザを出さない」という中国当局の規制によって、アンナプルナ北西壁への変更を余儀なくされた。ビエレッキは昨年冬にナンガ・パルバット、ベルクは夏にムスターグ・タワーと、いずれもパキスタンに遠征していた。

新疆ウイグル自治区の不穏な情勢がチベットに及ぶことを懸念した措置かどうかは不明。パキスタンは中国の友好国のひとつであるはずだが。一行4人は、ルソーが時間切れで帰国し、他の3人は、順応過程でチリツォ・ピーク（7134 m）に登ったという。

サウス・コルからエヴェレスト（8848 m）頂上までのルートは5月15日ようやく開通したが、翌早朝、先頭を切ったティム・モーズデル（イギリス）は、ヒラリー・ステップが一部崩壊して雪稜と化しているのを発見した。一昨年4月の大地震によるといわれ

ているが、昨年春の隊からはそのような情報はなかった。「容易になったといっても細い雪稜は1人ずつ通過するしかなく、ルートのネックであることに変わりはない」とモーズデルは語っている。また、地震前に設けられた下降専用ルートには「不安定な岩が積み重なって使用不能」だともいう。

チベット側では5月11日、ルート工作チームに先駆けてホリア・コリバサヌ（ルーマニア）が登頂。アルン・トレックがオーガナイズしたインド隊のシェルパ9人も当日登頂。その後、同隊からクライアント6人とシェルパ10人が登頂した。

ロンブックBC（5100 m）から頂上までのスピード登頂を狙うキリアン・ジョルネ・ブルガダ（スペイン）はチョー・オユーの頂上台地を往復した後エヴェレストに入った。5月20日深夜にBCを出て26時間登り続け、22日未明に登頂。従来の記録は、すべて6500 mのABCを起点としていた。

前回報じたウエリ・シュテックの事故に続く2人目の死者は、かつてのエヴェレスト最高齢登頂記録保持者だった。2006年5月、三浦雄一郎氏が75歳で登頂したとき、それより1歳上の76歳だったと報じられたミン・バハドウル・シェルチャン（ネパール）である。彼は、2013年に三浦氏が80歳で登頂するまでタイトルを保持していた。そのシーズンも、三浦氏を上回るべくBCに来ていたがモレーンで転び、肋骨を折って断念したという。

シェルチャンはその後、2015年にも登ろうとしたが、大地震で登山は中止。今回も、タイトルをネパール人の手に、と願う支援者に押され、シヴァ・バハドウル・サブコタの率いる隊でBCまでやってきたが、5月6日に心臓発作で亡くなったと報じられている。



雪稜と化したヒラリー・ステップ(部分)

# 熊本地震の被災にもめげず

## 実行委員会の立ち上げ

熊本県山岳連盟でも山岳5団体が2010年から本格的に始められた国民の祝日「山の日」制定運動を踏襲することで、熊本山岳5団体の実行委員会を立ち上げようとしたが、本県にはH A T - Jの組織はなく、労山の組織は存在するようだが、その実態はつかめず、結局、熊本県山岳連盟、日本山岳会熊本支部、日本山岳ガイド協会の3つの団体で共催することでスタートした。しかし、日本山岳ガイド協会九州支部が九州合同の「山の日」記念行事を開催することになり、日本山岳ガイド協会は外れ、結局、熊本県山岳連盟と日本山岳会熊本支部の共催ということで実行委員会を立ち上げた。

## 熊本地震の発生と未曾有の被害

実行委員会は実質6回開催した。今年の8月11日から祝日「山の日」が施行されるのは分かっていたので、「山の日」制定記念イベントの計画は、以前から始めていたため、3月10日の2回目の会議までに、大体の計画は出来上がった。会場は熊本のシンボル阿蘇の草千里ヶ浜を中心に、烏帽子岳、杵島岳を会場にして開催することにして、環境省、関係市町村、牧野組合等の使用許可を取り、熊本県等の後援依頼の話も進んでいた矢先、4月12日、16日と立て続けに震度7を越す熊本地震に見舞われた。あまりの被災の甚大さに、「山の日」イベントの実施どころではなくなった。熊本市内の被害もひどく、会議会場の確保すらできなくなった。この頃予定していた会議も2回続けて中止を余儀なくされた。

5月26日、会議場の予約が困難なため、大手スーパーのフードコートを使って会議を持った。このとき地震発生から40日を経過していたが、未だ余震は継続中で、今後どうするのか、阿蘇が立ち入りできなくなった今、会場を変更してでも開始したほうがいいのか、がその日の重要な議題であった。

参加者全員の意見は、「多くの被災者がおられるが、ただ、何事も自粛で何もやらないでいるより、出来るものから活動始めるべきだ。」という全員が前向きな意見であった。この頃は県民の誰もが心理的被害を抱えてはいたが、山に入り、ストレスを解消し、自然のエネルギーを山から頂き、復興へ携わるためにも、祝日「山の日」制定記念登山祭を開催すべきことを決定した。



## 会場地変更と祝日「山の日」制定記念登山祭の再計画

再計画に取り掛かったのが5月下旬のため、各自治体が毎月発行している市町村報への「山の日」イベントの掲載依頼が間に合わなかった。各関係団体への後援依頼もあきらめ、実行委員会の2団体でできるだけのことをすることにした。

会場の代替案としては、「小岱山」とした。この山は高度は低いが、天然林に覆われた一等三角点の山で、麓の集落の14ヶ所に登山口がある。最近では、年間3万人もの登山者が訪れる都市近郊の自然環境の豊かな山である。登山ルートは全て灌木の中の日陰道で夏山でも涼しい山である。玉名市は、「玉名自治振興公社」を設置し、小岱山の自然を守るビジターセンターを設けて職員を常駐させて、小岱山の自然を守り、育てている。「山の日」の趣旨をすでに実践されていて、自然との共生がなされている。登山道は良く整備され、今回我々が清掃登山を併行して行うため、登山者にゴミ袋を300枚配布したが、誰一人山中でゴミを拾った人はいなかった。

現代の車社会では、ほとんどの登山者が車で登山口まで車で乗りこむため、メイン会場には駐車場が必要になる。ここのキャンプ場には4つの駐車場があり、総じて100台ほどは収容できる。しかし、この程度では不足しそうなので、事前に集合場所のキャンプ場から500mほど離れた蓮華院誕生寺奥之院の広大な駐車場の借用を申請した。



# 「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2017」報告書

今年度で4回目を迎えた。平成28年度ジュニア登山教室「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2017」が国立那須甲子青少年自然の家を舞台に3月27日(月)～29日(水)の2泊3日の日程で、栃木岳連、福島岳連の協力をいただき開催された。

この登山教室は、小学生から中学生を対象とし残雪期の野外活動を通して、以下のことを目的とした。

- ①雪の残る春の自然とのふれあいを体験し、自然の素晴らしさ楽しさを学ぶ。
- ②共同生活による人(他者)とのふれあいの楽しさ、団体生活のルールを知る。
- ③自分でやろうとする気持ちをふくらませ、自ら考えて行動できるようにする。

今年は、東京・埼玉・神奈川・栃木から男子10名、女子6名、合計16名の参加者が集まり、学年も小学2年生から中学1年生までと幅広い構成となった。

1日目は新宿西口を7:30に出発し、渋滞もなく予定通り青少年自然の家に10:50に到着。開校式では隊長の日本山岳協会本木顧問から、活動の目的についてお話を頂いた。参加者の自己紹介の後、昼食を取り、午後の最初の活動はソリ遊びです。初めてスノーシューを体験する子がほとんどで、慣れない雪上歩行に始めは戸惑っていたが、次第にコツを掴んで歩けるようになった。本館から10分程度の所にある営火場Cまでは、ソリを引きずりながらスノーシューを履いて歩き、到着するとみんな待っていましたとばかり一気にソリに乗り始めた。みんな雪の環境に慣れていないため雪があるだけで大喜び。天候は、雪であったが、広大な雪原にいるのは我々だけ、完全なプライベート状態でした。途中から雪合戦や鬼ごっこ・かまくら作りを始め子供も現れ、雪まみれになりながら楽しく活動した。



夕食後活動は、猟師による講話学習。地元の猟師である大高紀元(おおたかのりもと)先生を講師にお招きし、実際に熊を仕留める時はどのような方法をとって行かなど詳細に話を頂いた。熊の毛皮を持参して頂き子供達が直に触ることができるなど都会ではできない貴重な体験をすることができた。

講話の後は「ふりかえり」の時間として、1日目の思い出を各自でまとめ、感想を発表しました。

2日目は、6時に起床し、いろいろな団体の方々に参加する「朝の集い」に出席し、ラジオ体操、自分達の団体の自己紹介などをして交流を図った。朝食の後、今回の大イベントである「雪のハイキングとスノードーム作りとソリ大会」となった。

昨日と打って変わり外は晴天で、風も穏やかだった。スノーシューを履いて標高1052mのパノラマ展望台に向かったが、37年ぶりの大雪と言うことでラッセルに時間が掛かり当初の予定を変更。急登などところでは、みんなで励まし合い、途中長靴が抜けたり、スノーシューがはずれたりする子もたが、何とか全員無事に、第1スキー場の上からハイキングコース入口より50mの所に



到着。

子供たちはみんな元気で、休む間もなくスノードーム作りを始めた。男の先生方に切り出してもらった雪のブロックを、子供たちが運んで積み上げていきます。次々に運んでくれるので、見る見るうちに高くなっていきます。その間、女の先生方はお茶の準備です。最後に平たくて薄い雪のブロックを一番上に乗せて、スノードームは完成しました。子供たちは交代で中に入り大喜びではしゃいでいました。そのころには紅茶も出来上がり、クッキーと一緒にいただきました。去年はこの企画が雪不足で中止になりましたが、参加者全員で記念写真を撮影し最高の時間を満喫することができました。

その後、自然の家にもどり、昼食を済ませ、自然観察の時間となった。場所は、自然の家周辺。野ウサギの足跡の発見、春の芽吹きが始まった木々を見ることができた。講師は、国立那須甲子青少年自然の家所属の高田雅雄先生と三村正先生を招き、施設周辺の植物に関して詳細に説明して下さり子供達は目をキラキラさせ話に夢中だった。この自然観察もスノーシューを履いての活動でしたので、終了してからの夕食の食べっぷりがとても良かったです。

2日目の「ふりかえり」では、子供達同士の触れ合いがとても自然になりました。

そして、いよいよ待ちに待ったお楽しみ会です。ボランティアスタッフとしてお願いした、平田真衣子先生に、班対抗でドッジボールなどを行い、みんなで輪になって色々なゲームを楽しみました。子供たちは、広いプレイホールを思いっきり走り回ってお友達との交流を深めることができました。

最終日は、2日目と同様に6時に起床しましたが、帰京すると言うことで、部屋の掃除をみんなで協力して行いました。日頃、自分でやることの少ない寝具の片づけや掃除機かけを体験し、子供たちにとっては「自分のことは自分です」という貴重な経験になった様です。



終了してから「朝の集い」に出席しました。

最後の活動である雪上運動会はソリ競争をした。誰も滑っていない新雪の上を全員がどこまで滑ることができるのか競い合い大人も交えて楽しむことができた。

運動会終了後、最後のふり返りでは、一番、楽しかったこと・がんばったこと・つらかったこと・勉強になったことを発表し合い、友達やスタッフへの一言も書きました。多くの子供たちは、がんばったこととつらかったことの両方にスノーシューを挙げていました。スノーシュー体験は、この行事で欠かすことのできない活動になっているようです。また、「来年も参加したい」とほとんどの子供たちがコメントしていたことから、活動プログラムの内容も初めて2泊3日で実施しましたが概ね好評だったようです。

最後の閉講式では本協会の西内常務理事から講評を頂き、本木顧問から修了証を授与され、なすかし雪遊び隊2017は無事終了しました。初顔合わせ同士とも子供たちはすぐに打ち解け、協調精神と自律する意識も芽生え、雪遊び隊の目的も概ね達成できたと考えています。2泊3日は、初めての実施期間でありましたが、学校・家庭以外の人達との団体生活で得たこと、そして自然との触れ合い、さらに環境保護の気持ちを、今後も忘れずに各々が大切な思い出として成長してほしいと願っています。(文責 中瀬和徳)

エスプラナーデのすべてのロッジを制覇!

**出発日限定** エスプラナーデ大縦走と  
フェアビューマウンテン登頂 9日間

発着地 東京 出発日 8/20(日) 旅行代金 ¥648,000

※燃油サーチャージ(2017年5月20日現在:目安約14,000円)が別途必要です。今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/POJF環境委員

**アルパイン ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7 東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

### 第56回海外登山技術研究会開催

日時	7月22日(土)14時30分~23日(日)12時
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
内容	1. 海外登山報告2016 (カン・ナチェゴ南壁ほか) 2. 新しいアルパインクライミングの可能性 (称名川本流完全遡行ほか)
参加費	一般2,000円、学生・10代500円、 20~30代1,000円、2日通し12,000円



## 平成29年度定時総会報告

去る5月28日(日)に東京渋谷の岸記念体育会館で平成29年度定時総会が開催された。

総会に先立ち八木原会長より、「4月に名称変更して初めての総会です。その時々でいろんなことがあったが、今も変わり目の時期である。一丸となってこの大変革期を皆さんと一緒に乗り切っていきたい。」と挨拶。

次いで栃木県山岳連盟の喜内会長より、那須雪崩遭難事故について報告があった。

続いて、定款第16条に定めるところにより、八木原会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足(出席55名、委任4名、欠席1名)を確認して、本会議の開会を宣言した。次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として八木原議長、蛭田伸一(千葉)、木村康男(香川)を選任して議案の審議に入った。

### 1. 議 事

(1)議案第1号 平成28年度事業報告について

(2)議案第2号 平成28年度収支決算報告及び監事監査報告について

先ず、小野寺事務局長が事業報告を説明し、次いで相良理事が収支決算の説明をした。その後、内藤監事より監事監査報告及び監査所見の報告があった。

議案第1号及び議案第2号は、賛成59、反対0で承認された。

(3)理事・監事の選任について

先ず理事候補者25名について一人ずつ個別に承認が諮られ、何れも異議なく承認された。

次いで監事候補者3名について一人ずつ個別に承認が諮られ、何れも異議なく承認された。

### 2. 報 告

(1)報告第1号 平成28年度事業計画及び予算について  
小野寺事務局長が資料に基づき事業計画を、相良財政担当理事が予算について説明を行った。

若い人の取り込み、女性役員登用の取り組み、クライミングジムとの連携、少年少女登山教室の助成について、ハイキングリーダー制度について、スポーツクライミングの身体ケアの講習会、競技施設の整備に対する協力要請、選手登録、山の事故の法律問題に関わる講習会などの質疑があった。

次の報告に入る前に熊本地震の義援金残額を手渡し、熊本岳連の工藤会長からお礼の挨拶があった。

スポーツクライミングの最近の状況について小日向選手強化委員長から説明があった。東京オリンピックの競技会場は、江東区青海地区のアーバンスポーツ

広場で行う。若者を取り込むために都心に設定した。来年アルゼンチンのブエノスアイレスで開催されるユースオリンピックでは、リード、ボルダリング、スピードの複合競技が行われ、東京のテスト・ケースとして位置づけられている。競技についての分かり難さを払しょくする取り組みがなされている。スポーツクライミングはスポーツ庁からも高い評価を得ている。一方で結果を出さないと話にならない。壁の設置についても規格対応などフレキシブルに対応してほしい。

(2)報告第2号 創立60周年記念事業募金について

小野寺事務局長が資料に基づき募金内容を説明した。

(3)報告第3号 平成28年度山岳共済会事業報告、収支決算報告及び平成29年度山岳共済会事業計画、収支予算について

尾形山岳共済会会長が先ず、平成28年度の報告を行い、その後、内藤順造監事より平成28年度の監査報告があった。

次いで、平成29年度事業計画及び収支予算について説明された。

### 3. その他

(1)第56回全日本登山大会・北海道大会について

北海道の小野会長から資料に基づき実施概要が説明され、多くの参加を呼びかけられた。

(2)祝日「山の日」記念事業について

小野寺事務局長から資料に基づき説明があり、尾形専務理事から補足があった。昨年の「山の日」記念事業については日本山岳文化学会の『山岳文化』18号(創立15周年記念誌合併号)に紹介した。後日、各岳連へ1部贈呈すること。

(3)平成30年度定時総会日程について

平成30年は6月10日(日)開催予定との事。

(4)第2回「山の日」記念全国大会について

栃木県の喜内会長より追加報告があった。

(5)協会名称の変更に伴う旗の作成

新会旗がお披露目され、各都道府県に配布された。最後に退任される役員から一言ずつ挨拶があった。

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は、14時50分閉会を宣した。

(※平成28年度事業報告は、誌面の都合で、次号に掲載します。)

### 鈴木長官岩手山登山!

7月1日の岩手山山開きの日にスポーツ庁の鈴木大地長官が岩手山に登山されます。岩手県山岳協会主管祝日「山の日」制定記念事業「みんなでふるさとの山に登ろう!」全国キャンペーンの一環です。

## 平成29年度理事会（第1回）報告

日時：平成29年5月13日（土）10：30～15：50

場所：岸記念体育会館102,103会議室

出席者 理事：八木原、尾形、高橋、亀山、小野寺、西内、仙石、瀧本、森下、京オ、水島、中瀬、相良、増山、北村、小野、齋藤、小宮山、牧野、亀井、伊藤、大西、峯本、下田（欠席：國松嘉伸）

監事：内藤、岡本、中島各監事

### 開 会

小野寺事務局長より、出席理事24名、監事3名によって、会議は成立したことが報告された。

次いで定款第32条により会長が議長となり、定款第34条により会長及び監事を議事録署名人に指名。

### 議 事

(1)議案第1号 平成28年度事業報告の承認について

小野寺事務局長が説明し、異議なく承認された。

(2)議案第2号 平成28年度収支決算の承認について

相良理事と小野寺事務局長より説明があり、其の後、内藤監事から監査報告、監事所見について報告があった。

二重払いや未払金内訳について質疑があった後、議案第2号は、承認された。

(3)議案第3号 正会員の入会承認について

次の正会員5名の入会承認が諮られ、承認された。

小木曾昭文（岐阜）、澤山恵（滋賀）、藤本直民（奈良）、山田雅昭（広島）、永谷常和（鹿児島）

(4)議案第4号 理事・監事候補者推薦について

先ず、会長・副会長候補者推薦委員会から提案された副会長候補者の平山裕示氏の推薦が承認された。

続いて、役員候補者推薦委員会から推薦された理事20名の推薦が承認された。

次に監事候補者3名の推薦が諮られ、異議なく承認された。

(5)議案第5号 定時総会の招集と議案題について

総会次第の一部修正で、承認された。

(6)議案第6号 国体競技規則の一部改正について

条文文言の一部修正で承認された。

(7)議案第7号 組織管理運営規程改正について

条文文言の一部修正で承認された。

(8)議案第8号 スポーツライミング日本代表チーム

のユニフォーム等運用内規の追認と改正について

先ず、3月4日に会長専権事項として一部改正した追認が諮られ、承認された。

次いで、一部改正が諮られ、承認された。

(9)議案第9号 代表登録をしない代表選手の取扱いについて

議案第9号は、提案通り賛成23、反対1で承認された。

(10)議案第10号 創立60周年記念事業募金について

募金主旨、目標額等については、定時総会前に理事各位に通知することで承認。

### 報 告

(1)報告第1号 平成28年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

尾形共済会会長より報告があり、続いて監査報告が内藤監事からあった。

### その他

(1)祝日「山の日」記念事業について

(2)第56回全日本登山大会・北海道大会について

(3)事務局員給与について

### 閉 会

## 平成29年度理事会（第2回）報告

5月28日（日）の定時総会終了後に引き続き岸記念体育会館で選任された新役員による理事会（第2回）が開催された。

先ず、代表理事（会長）の選任が諮られ八木原罔明氏が満場一致で選任された。

理事会出席者は、理事25名、監事3名の全員が出席し、定足数を満たした。

定款に基づき八木原会長を議長に選出し、議事録署名人を会長及び監事に指名して議事に入った。

### 議 事

(1)議案第1号 業務執行理事の互選と管掌業務について

業務執行理事の互選と理事の管掌業務について諮られ、最終的に別表の通り承認された。

(2)議案第2号 平成29年度理事会（第1回）議事録承認について

異議なく承認された。

(3)議案第3号 正会員の入会承認について

以下の正会員入会の承認が諮られ、異議なく承認された。

秋山教之（山梨）、森庄一（新潟）、戸高和義（福岡）

(4)議案第4号 平成29年度ユース日本代表選手の承認について

提案通り男子12名、女子8名の2017年ユース日本代表選手が承認された。

(5)議案第5号 平成29年度補正予算における付帯決議について

# 平成28年(2016年)度 収支決算報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

## 貸借対照表

(単位:円)

科目	当年度 (H29/3/31)	前年度 (H28/3/31)	差異
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	35,850,598	40,675,636	△ 4,825,038
未収金	20,647,113	6,898,440	13,748,673
前払費用	2,558,021	1,257,660	1,300,361
仮払金	1,050,000	0	1,050,000
流動資産合計	60,105,732	48,831,736	11,273,996
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) 特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	15,495,367	15,495,367	0
退職給付引当資産	1,836,240	1,836,240	0
特定資産合計	17,331,607	17,331,607	0
基本財産・特定資産合計	47,331,607	47,331,607	0
(3) その他固定資産			
機械器具	59,400	121,250	△ 61,850
什器備品	1	79,275	△ 79,274
ソフトウェア	2,448,618	849,390	1,599,228
電話加入権	43,989	43,989	0
その他固定資産合計	2,552,008	1,093,904	1,458,104
固定資産合計	49,883,615	48,425,511	1,458,104
資産合計	109,989,347	97,257,247	12,732,100
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払費用	8,892,329	5,102,194	3,790,135
前受金	3,704,200	3,077,000	627,200
預り金	1,019,775	763,589	256,186
未払消費税等	2,849,700	505,600	2,344,100
賞与引当金	1,440,276	1,360,662	79,614
流動負債合計	17,906,280	10,809,045	7,097,235
2 固定負債			
退職給付引当金	7,809,000	6,040,000	1,769,000
固定負債合計	7,809,000	6,040,000	1,769,000
負債合計	25,715,280	16,849,045	8,866,235
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	54,274,067	50,408,202	3,865,865
(うち特定資産への充当額)	(17,331,607)	(17,331,607)	(0)
正味財産合計	84,274,067	80,408,202	3,865,865
負債及び正味財産合計	109,989,347	97,257,247	12,732,100

平成29年度の予算執行をみて補正の必要が生じた場合は、補正予算を組み、補正予算案は常務理事会に一任する旨が諮られ、承認された。

### 報告

(1)報告第1号 新ビル移転計画について

(2)報告第2号 新事務所(東京五輪推進室)賃借について

以上で議事の審議は終了し、其の後、役員の自己紹介をして閉会となった。

(記 尾形好雄)

### 新役員名簿・担務

No.	氏名	役職	担務
1	八木原 暁明	会長	
2	亀山 健太郎	副会長	会長職務代理者・総括(財政、人事、渉外)
3	高橋 時夫	副会長	総務(組織、管理、法務、広報)
4	伊藤 克己	副会長	登山(指導、ジュニア普及、遭対、自然保護)
5	平山 裕示	副会長	スポーツクライミング(競技、技術、選手強化、五輪)
6	尾形 好雄	専務理事	総務・登山・スポーツクライミング・共済会
7	小野寺 斉	常務理事	総務部長・事務局長(総務部統括、財政、国際)
8	水島 彰治	常務理事	総務副部長(広報、共済会)
9	村岡 正己	常務理事	スポーツクライミング部長(競技運営・国体)
10	小日向 徹	常務理事	スポーツクライミング副部長(選手強化)
11	合田雄治郎	常務理事	法人全般(総務・登山・技術・アスリート・S.C医科学・倫理)
12	仙石 富英	常務理事	登山部長(普及、ジュニア、自然保護)
13	蛭田 伸一	常務理事	登山副部長(指導)
14	町田 幸男	常務理事	登山(遭対、登山医科学)
15	相良 忠麿	理事	総務(財政、共済会)
16	中瀬 和徳	理事	登山(高体連、ジュニア、普及)
17	小野 倫夫	理事(北海道)	登山
18	吉田 弘司	理事(東北)	スポーツクライミング
19	小宮山 稔	理事(関東)	総務・登山(企画、普及)
20	森 庄一	理事(北信越)	スポーツクライミング
21	滝田 博之	理事(東海)	登山
22	古賀 英年	理事(近畿)	スポーツクライミング
23	松本 実	理事(中国)	登山
24	木村 康男	理事(四国)	スポーツクライミング
25	工藤 文昭	理事(九州)	登山
1	内藤 順造	監事(山梨)	
2	中畠 正喜	監事(税理士)	
3	古屋 寿隆	監事(山梨)	

### 〈平成28年度協賛各社及び助成金法人一覧〉

KDDI(株)、三井不動産(株)、キョウリン製薬ホールディングス(株)、オリエンタルバイオ(株)、牛乳石鹸共進(株)、(株)八海山、マムート・スポーツ・グループ・ジャパン(株)、(株)ゴールドウイン、三井住友海上火災保険(株)、(株)ゼロスタート、(株)スカイ・A、(株)好日山荘、ラ・スポルティバジャパン、田中産業(株)、(株)モンベル、(株)ヨシキスポーツ、レッドレンザー・ジャパン(株)、ピラミッドジャパン(株)、国際自然環境アウトドア専門学校、カモシカスポーツ横浜店、(株)牛走、(公財)日本オリンピック委員会、(独)日本スポーツ振興センター(スポーツ振興基金助成金、スポーツ振興くじ助成金)、日本山岳遺産基金(敬称略、順不同)

# 正味財産増減計算書

# 財産目録

科目	当年度	前年度	差異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用利益	7,520	7,500	20
基本財産受取利息	7,520	7,500	20
特定資産運用利益	2,683	4,333	△ 1,650
特定資産受取利息	2,683	4,333	△ 1,650
受取会費	13,781,000	13,980,000	△ 199,000
正会員受取会費	2,860,000	2,500,000	360,000
加盟分担金受取会費	8,743,000	8,890,000	△ 147,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	2,178,000	2,590,000	△ 412,000
事業収益	169,148,849	107,117,138	62,031,711
共済会委託事業収入	40,000,000	40,000,000	0
登録料	12,187,000	11,907,000	280,000
参加者負担金	22,800,240	32,995,304	△ 10,195,064
協賛金	82,412,000	16,358,800	66,053,200
広告料	3,496,800	3,615,600	△ 118,800
競技会収入	4,923,054	723,600	4,199,454
その他事業収益	3,329,755	1,516,834	1,812,921
受取補助金等	62,389,210	25,452,990	36,936,220
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	2,900,000	0
日本オリンピック委員会助成金	31,985,000	7,126,000	24,859,000
国民体育大会補助金	7,838,210	6,425,240	1,412,970
日本体育協会助成金	0	965,750	△ 965,750
スポーツ振興くじ助成金	5,649,000	5,283,000	366,000
スポーツ振興基金助成金	14,017,000	2,753,000	11,264,000
受取負担金等	0	0	0
受取寄付金等	163,275	0	163,275
受取寄付金	163,275	0	163,275
雑収益	5,155	8,773	△ 3,618
受取利息	5,155	8,773	△ 3,618
雑収入	0	0	0
経常収益計	245,497,692	146,570,734	98,926,958
(2) 経常費用			
事業費	207,826,982	120,635,321	87,191,661
給料手当	16,096,292	11,993,345	4,102,947
通勤費	909,342	848,267	61,075
退職給付費用	1,217,072	544,208	672,864
賞与引当金繰入	990,910	936,135	54,775
福利厚生費	1,288,508	857,883	430,625
会議費	1,865,883	1,334,205	531,678
旅費交通費	59,381,906	42,415,954	16,965,952
通信運搬費	2,933,696	2,182,134	751,562
減価償却費	450,624	198,088	252,536
消耗品費	1,926,834	1,754,137	172,697
印刷製本費	8,642,267	7,944,680	697,587
広告宣伝費	5,940,000	0	5,940,000
光熱水料費	53,307	42,150	11,157
賃借・リース料	11,234,049	4,606,116	6,627,933
保険料	1,576,526	1,474,113	102,413
諸謝金	14,440,027	12,037,425	2,402,602
租税公課	2,459,571	607,133	1,852,438
大会施設費用	42,351,105	8,027,931	34,323,174
支払負担金及び還付金	7,447,465	5,073,329	2,374,136
支払助成金及び事業交付金	3,251,000	3,426,000	△ 175,000
委託費	9,382,000	10,123,083	△ 741,083
参加登録料	2,251,856	0	2,251,856
現地サポート費用	0	1,586,370	△ 1,586,370
大会記念品費	2,140,388	696,178	1,444,210
大会賞金	3,117,016	1,180,000	1,937,016
報奨・奨励金	6,320,000	700,000	5,620,000
雑費	159,338	46,457	112,881
管理費	33,804,845	26,181,395	7,623,450
役員報酬	150,000	120,000	30,000
給料手当	5,446,437	3,275,199	2,171,238
通勤費	412,376	384,681	27,695
退職給付費用	551,928	246,792	305,136
賞与引当金繰入	449,366	424,527	24,839
福利厚生費	584,323	456,114	128,209
会議費	2,230,931	1,706,838	524,093
旅費交通費	11,770,867	10,244,953	1,525,914
通信運搬費	193,973	154,945	39,028
減価償却費	69,002	108,272	△ 39,270
消耗品費	158,435	164,745	△ 6,310
印刷製本費・P R	1,416,163	1,195,241	220,922
光熱水料費	10,929	11,720	△ 791
賃借・リース料	695,355	769,192	△ 73,837
支払会費	2,156,088	2,389,112	△ 233,024
保険料	58,734	58,734	0
租税公課	940,679	240,817	699,862
支払負担金及び還付金	3,563,600	3,138,800	424,800
交際費	384,210	276,771	107,439
支払寄付金	170,340	0	170,340
支払報酬	179,600	179,600	0
手数料	759,754	502,615	257,139
IT関連	563,454	128,646	434,808
雑費	888,301	3,081	885,220
経常費用計	241,631,827	146,816,716	94,815,111
評価損益等調整前当期経常増減額			
評価損益等計			
当期経常増減額	3,865,865	△ 245,982	4,111,847
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額			
指定正味財産から振替額			
当期一般正味財産増減額	3,865,865	△ 245,982	4,111,847
一般正味財産期首残高	50,408,202	50,654,184	△ 245,982
一般正味財産期末残高	54,274,067	50,408,202	3,865,865
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金等	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	30,000,000	30,000,000	0
指定正味財産期末残高	30,000,000	30,000,000	0
III 正味財産期末残高	84,274,067	80,408,202	3,865,865

平成29年3月31日現在 (単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
現金・貯預金・郵便振替			35,850,598
現金	手元保管	日常の小口資金として	497,676
当座預金	みずほ銀行渋谷支店	日常の入出金口座	5,532,676
普通預金			7,601,180
みずほ銀行渋谷支店	3382501	日本スポーツ振興センター助成金入金口座	1,645,532
みずほ銀行渋谷支店	3382563	免税口座	44,185
みずほ銀行渋谷支店	3382536	日本オリンピック委員会補助金入金口座	2,892,806
みずほ銀行渋谷支店	3382447	日本体育協会補助金入金口座	1,014,752
三菱東京UFJ渋谷明治通支店	3788361	日本スポーツ振興くじ補助金入金口座	494,631
三菱東京UFJ渋谷明治通支店	3780203	定期預金利息入金	721,610
みずほ銀行渋谷支店	8017119	国民スポーツ登山振興基金利息口座	67,003
みずほ銀行渋谷支店	1323253	中高年安全登山指導者講習会口座	518,419
みずほ銀行渋谷支店	2550591	ワールドカップ口座	202,242
ゆうちょ銀行郵便振替	0110-5-546693	一般会計入出金用	2,219,066
	0110-8-407261	指導関係入出金用	717,991
定期預金			
みずほ銀行渋谷支店	6078990	当法人の事業資金	20,000,000
未収入金			20,647,113
日本スポーツ振興くじ		アンダーピング助成金未収金	509,000
日本スポーツ振興くじ		レスキュー講習会助成金未収金	740,000
日本スポーツ振興基金		W-cup 加須大会助成金未収金	3,200,000
日本スポーツ振興基金		ホルダリングジャパンカップ助成金未収金	2,400,000
日本スポーツ振興基金		日本選手権助成金未収金	417,000
日本オリンピック委員会		選手強化助成金未収金	10,300,000
国際大会参加選手		大会参加登録料	270,000
国際大会参加選手		大会参加費	160,000
岳連協会他		クライミングテキスト代	869,400
共済会他		共済会人件費立替他	371,351
選手強化スタッフ		謝金及び旅費の過払い分	1,410,362
前払費用			2,558,021
I F S C		ホルダリングWC2017 東京大会サービスフィー他	1,996,231
三井住友海上火災		29年度賠償責任保険料	220,770
国際委員会		UIAA 委員会出席旅費	191,770
競技委員会他		会議費他	149,250
仮払金			1,050,000
山岳スキー競技会実行委員会		第11回山岳スキー競技選手権大会	1,050,000
流動資産合計			60,105,732
(固定資産)			
基本財産			30,000,000
基本財産	みずほ銀行渋谷支店	当法人の基本財産	30,000,000
定期預金	6078982		
特定資産			17,331,607
国民スポーツ登山振興基金	三菱東京UFJ渋谷明治通支店 定期預金3780203	国民スポーツ登山振興基金特別会計	15,495,367
退職給付引当資産	みずほ銀行渋谷支店 定期預金6078974	職員の退職金支払に備えたもの	1,836,240
その他固定資産			2,552,008
機械器具	パソコン 1台	事務局用	59,400
什器備品	書庫 1式	事務局用	1
ソフトウェア	選手登録データベース構築費	選手登録用	572,730
ソフトウェア	Webサイト製作費	事務局用	1,875,888
電話加入権	03-3481-2396	事務局用	43,989
固定資産合計			49,883,615
資産合計			109,989,347
未払金			8,892,329
WC/世界選手権派遣選手		上位入賞者報奨金	5,020,000
大会スタッフ		旅費交通費	2,498,349
海外強化宿泊スタッフ		謝金	1,006,836
日本スポーツ振興センター他		メダルチェック費用他	367,144
前受金			3,704,200
登録選手		29年度分選手登録料	2,108,000
日本ユース選手		日本ユース選手権大会参加費	765,000
山岳スキー選手		第11回山岳スキー競技選手権大会参加費	528,000
自然保護指導員他		自然保護指導員登録料他	298,000
登山月報購読者		29年度以降購読料	5,200
預り金			1,019,775
事務局職員		給与源泉所得税	55,770
大会スタッフ他		謝金源泉所得税	709,437
事務局職員		厚生年金 & 健康保険料	111,204
事務局職員		雇用保険料	48,979
事務局職員		住民税	20,200
募金応募者		熊本募金	74,185
未払消費税等			2,849,700
渋谷税務署		消費税等納付予定額	2,849,700
賞与引当金			1,440,276
事務局職員		職員の賞与支給見込み額	1,440,276
流動負債合計			17,906,280
(固定負債)			
退職給付引当金			7,809,000
事務局職員		職員の退職金支払に備えたもの	7,809,000
固定負債合計			7,809,000
負債合計			25,715,280
正味財産			84,274,067

**日 時** 平成29年5月10日(木)  
**場 所** 岸記念体育会館・505会議室  
**出席者** 八木原会長、尾形、高橋・亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京オ、瀧本、仙石、水島、中瀬常の各常務理事、中島監事  
**委 任**：國松副会長

## 1. 議 事

- (1)平成28年度29年4月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (2)会長・副会長推薦委員会報告について  
小野寺常務理事が資料に基づいて提案を行った。  
提案通り承認された。
- (3)役員推薦委員会報告について  
小野寺常務理事が資料に基づいて提案を行った。  
提案通り承認された。
- (4)ブロック代表理事について  
小野寺常務理事が資料に基づいて提案を行った。  
提案通り、異議なく承認された。
- (5)正会員入会について  
小野寺常務理事が資料に基づいて提案を行った。  
提案通り、異議なく承認された。
- (6)平成28年度収支決算の承認について  
二重払いの件で、決算を修正して理事事に提案することで承認。  
監事監査報告について、監査所見も含めて。  
中島監事が資料に基づいて報告した。  
平成29年度の定時総会で熊本岳連に対し、地震見舞募金の残額を手渡すことが確認された。
- (7)キルギス・マウンテンスピリット参加者追加について  
小野寺常務理事が資料に基づいて提案を行った。異議なく承認された。
- (8)国体競技規則一部改訂について  
森下常務理事が資料に基づいて提案を行った。  
文言の一部訂正を行い、理事会に諮ることで承認。
- (9)29年度以降のジュニア登山教室について  
西内常務理事が資料に基づいて説明。  
今年度は例年通り実施する。12名以下の参加者の時は中止。30年度以降は各ブロックに移行。  
岳連の少年少女登山教室では、スポーツクライミング関係でも交付したい。
- (10)組織管理運営規程改正について  
尾形専務理事が資料に基づいて説明。  
文言の一部訂正を行い、理事会に諮ることで承認。

## 2. 報告事項

- (1)平成28年度山岳共済会決算報告について  
尾形共済会会長が資料に基づいて報告。
  - (2)WC 報告・中国重慶、南京及び八王子について  
森下常務理事が資料に基づいて報告を行った。
  - (3)遭難対策ポケットガイドブック報告について  
西内常務理事が資料に基づいて報告を行った。10万部作製との事。予算についてはスポーツ庁も絡むが、要確認。
  - (4)国体参加JR運賃割引不正使用について  
小野寺常務理事が資料に基づいて説明。
  - (5)アスレチックトレーナー受講内定通知について  
小野寺常務理事が資料に基づいて説明。  
スポーツクライミング関係で受講希望者が増えている。
  - (6)国体抽選日時について  
小野寺常務理事が資料に基づいて報告。
  - (7)遭対委員会総会について  
西内常務理事が資料に基づいて報告。  
関西の役員に出席頂きたい。
  - (8)賛助会員退会について  
溝上春見氏(長崎岳連)  
小野寺常務理事から報告があった。
  - (9)代表選手説明会について  
尾形専務理事から報告。
  - (10)指導委員会の総会  
6/3, 4に海員会館で開催。亀山副会長が出席。
  - (11)7月の全日大会に中瀬常務理事に出席して頂きたいと仙石常務理事から依頼があった。
  - (12)インターハイについて  
会長は、7/29に出発して7/30出席。技術顧問については、新指導委員長に依頼することにする。
- ## 3. 指導員・審判員 検定結果報告
- スポーツ指導者専門科目修了認定申請
- (1)山岳指導員  
岩手：(5/21～2/12、2/20申請)  
平賀照子  
神奈川：(9/25～2/12、2/13申請)  
富岡英俊、木村温恵、山口岳、中川雅之、田中将司、大沼芳人、山新真人
  - (2)山岳上級指導員  
神奈川：(9/25～2/12、2/13申請)  
戸田優子、羽生田公明、松嶋秀樹、松嶋麻子、山下剛宏、春木俊秀、内村利宏、蛭田 亮、山本大貴、鈴木大地、志村英輔、久野由博
  - (3)山岳指導員  
広島：(6/4～1/15)  
坂原忍、上田辰治、沖本泰使、久保田政治、加藤裕子、森和樹、後藤裕司、勝田直樹、堂前加代、豊田哲也、萩田純代、小家石美雪、越智秀之、川口洋平、原田繁記、梶山由貴恵。大田祐介、西村 康、近藤聡、渡邊久美子  
追加した別紙と差し替えて、瀧本常務理事から説明があった。

## 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)第18回埼玉加須クライミングカップ後援承認について
- (2)第10回コバトンボルダリングカップ後援承認について  
上記2件について異議なく承認。

## 5. 専門委員会動静

- (4月7日～5月9日)
- (1)ジュニア普及委員会  
4月25日(木) 出席6名
- ア) 報告事項
- ①3月度常務理事会報告(中瀬)
  - ②なすかし雪遊び隊2017報告(中瀬)
  - ③ジュニア登山教室 in 立山2017  
8月17日～20日 予約済み
- イ) 議 題
- ①ジュニア登山教室 in 立山2017について  
・日程：8/17(木)～20(日)  
・募集人数：40名(30名+スタッフ10名)  
参加者12名以上で催行。11名以下は中止とする。  
・チラシ(2000枚)、ポスター(100枚)の配布  
・下見打合せ：7/11(火)～12(水)
- (2)国際委員会  
4月11日(火) 出席11名、委任4名
- ア) 報告事項
- ・第11回山岳スキー競技日本選手権報告(4/1、2) 参加61名。
  - ・キルギス マウンテンスピリット2017参加者について  
レーニン峰登山：久松靖氏  
アイスクライミング：岩田直也氏、保坂朋秀氏
  - ・イラン3rd サマーキャンプ(ダマバンド)公募案内について
  - ・アメリカ AAC国際クライマーズミート公募案内について
  - ・アルパインクライマーへのアンケートについて
- イ) 協議事項
- ①平成29年度国際委員総会 兼 第56回海外登山技術研究会について  
7月22、23日、オリセン80人部屋
  - ・ルンポ・カンリのビデオ報告
  - ・単独ノンサポート北アルプス全山縦走報告ほか
  - ②国内外に向けてのHP案について  
・日本の山の概要紹介  
・気候と装備  
・入山手続き  
・登山中の注意点  
・緊急時の対処と保険  
・計画書の提出
- (3)自然保護委員会  
4月20日(木) 出席12名 委任4名
- ア) 議 事
- ①平成29年3月度自然保護常任委員会議事録について
- イ) 報告事項
- ①山岳団体自然環境連絡会  
3月14日 労山事務所 松隈
  - ②自然保護指導員養成出前講座  
3月26日 宇都宮 25名(手塚)

- ③タカラハーモニストファンド応募 3月30日発送 5月末締切
- ④環境省自然公園指導員活動状況報告書(提出12名)次回披露
- ⑤環境省自然公園指導員功労者表彰候補推薦(2名)3月23日送達
- ⑥常任委員の推薦 現状とおり16名
- ウ) 審議事項
- ①山岳団体自然環境連絡会への派遣役員について
- ②自然保護指導員の登録管理について
- ③常任研修会について  
神奈川担当(要項参照)  
開催日6月17日~18日 箱根外輪山東域(足柄方面) 宿泊「文覚荘」定員30~40人
- ④携帯トイレ・トイレゴミ持ち帰りの普及推進について(田上)  
・パンフレット制作スケジュールについて
- ⑤日山協自然保護委員総会石川県大会について

- 調査下見: 6月6日~7日下見予定  
白峰地区泊(松隈 岩崎 小林)
- ⑥自然保護委員の用品の更新について
- ⑦自然保護委員会プロジェクトについて  
・自然保護指導員養成テキストについて  
・「山の神」調査について  
「森林文化協会」からの資料紹介
- エ) 情報交換・連絡事項
- ①阿里山アジア自然保護交流会 11月22日~27日 台湾 計画書は6月頃
- ②雲取山 奥多摩小屋トイレについての研修 10月21日~22日 都岳連
- ③「栃木百名山を指導者と登る」 栃木県岳連が募集(手塚)
- 6. その他の重要事項**  
4月3日~5月8日
- (1) J O C 竹田会長に挨拶、I F S C 副会長就任及びN T C にスポーツクライミング施設設置要望 4月3日 於: J O C 八木原会長、小日向強化委員長
- (2) B W C 実行委員会 4月7日(金)

- 於: エスフォルタアリーナ八王子  
尾形副会長、森下部長
- (3) スポーツクライミングNHKアナウンサー勉強会 4月11日(火) 於: Rock Wall 青山 森下競技部長
- (4) 日本ユース選手権リード競技大会 4月15日(土)~16日(日) 於: 千葉・印西市松山下公園総合体育館 八木原会長、尾形副会長、森下競技部長、小日向委員長、他
- (5) 愛媛国体第一回基準会議 4月15日(土)~16日(日) 於: 愛媛県西条市クライミングパーク西条 京才副部長、西原委員長
- (6) 高室陽二郎顧問ご逝去。享年87歳 4月17日(月)
- (7) 1976年日本イラン合同マナスル登山隊のイラン側隊員が表敬来局 4月20日(木)
- (8) U I A A 登山部会 4月20日(木)~22日(土) 於: イギリス・ケスウィック 青山副委員長
- (9) 役員候補者推薦委員会 4月21日(金) 於: 岸記念体育会館 亀山副会長ほか
- (10) 栃木県山岳連盟総会 4月22日(土) 於: ニューみくら 八木原会長
- (11) 東京五輪組織委員会打合せ 4月27日(木) 於: 新宿パークタワー組織委員会会議室 尾形副会長、小日向委員長
- (12) 業務及び会計監査 4月27日(木)~28日(金) 於: 岸記念体育会館 内藤、岡本、中島各監事、尾形副会長、小野寺常務理事、相良理事
- (13) I F S C ボルダリングワールドカップ八王子大会2017 5月6日(土)~7日(日) 於: エスフォルタアリーナ八王子 八木原会長、尾形副会長、森下競技部長、小日向委員長、他

## 寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷社	「スポーツクライミング教本」著: 東 秀磯	
	(株)山と溪谷社	「作例でわかる! 山岳写真上達法」著: 中西俊明	
	三嶺の森をまもるみんなの会	「三嶺の森-再生への途と課題」著: 三嶺の森をまもるみんなの会	
	生田 真也	「宮崎の岩場」著: 三澤 澄男	
	サンレター協会	「ノルウェー5大フィヨルド 自由旅行携行ガイドブック」	
	雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.840
		(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.986
		兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第599号
		福岡山の会	「せふり」No.380
		(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.276
(公財)健康・体力づくり事業財団		「健康づくり」No.469	
市立大町博物館		「研究紀要」第2号	
三峰山岳会		「岩つばめ」No.353	
(公財)全日本ボウリング協会		「JBCニュース」第546号	
(一財)日本万歩クラブ		「帰れ自然へ」第574号	
会報	横浜山岳会	「山」1019号	
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》258	
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.58	
	植村直己冒険館	「植村直己冒険館だより」第18号	
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.31	
	(公財)日本体育協会	2017年5月8日号 体協フェアプレイニュース/体協スポーツニュース	
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.332	
	白河山岳会	「一里瀧」第41号	
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.31	
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.508	
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第442号	
	FEEC	「VERTEX」271	
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.221	
	中国登山協会	「山野」2017 5 総225期	
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.94	
(公社)日本山岳会	「山」No.864		
La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.		
おいらく山岳会	「山行手帖」No.690		

## 編集後記

平成29年度定時総会が5月28日開かれ新役員体制が発足した。スポーツクライミングの第一人者平山裕示氏が副会長の職責で競技関係のみをみることに、又常務理事の半数は競技関係者が、本協会は名実ともに両輪となった。情報公開と意思決定の透明性がベクトルを合わせるのに必要不可欠か。いずれにせよ両輪を回すには加盟団体の協力無しでは困難でありより一層のご協力をお願いします。(広報担当 水鳥彰治)

### 登山月報 第579号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年6月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**  
**神奈川県事務局**  
 〒252-0184  
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

**妙高赤倉マウンテンレース**  
 パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 **北丹沢山岳センター**  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL. 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本 憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

## 年間購読がおすすすめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** (税込8,812円) **→ 7,480円** (税込8,078円)  
1年間で680円  
1冊分無料

### 年間購読特典

岳人オリジナル  
コンパクトフォームパッド

年間購読を  
お申し込みの  
みなさまに  
プレゼント!



使用サイズ  
33×26×0.8cm



7月号  
6/15発売

「岳人」2017年7月号

特集 日本の山⑥ 立山

【連載】竹田津 実「オホーツクの村物語り」  
斎藤 潤「しま山100選」/山の学問/登山と体  
/とっておきの山歩き ほか

本体価格 680円 (+税)

★モンベルのウェブ  
サイト、全国のモン  
ベルストアや書店  
にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)  
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp>

初めて、  
という不安。

ここから始まる、  
という希望。



未来は、  
希望と不安で、  
できている。

明日をつよく。三井住友海上

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト  
( [www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/) )



WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com) )